

編集後記

雑誌名	日本文学誌要
ページ	88-88
発行年	1974-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10114/00019259

編

集

後

記

「日本文学誌要」は、70年3月に発刊された第22号を最後に現在にいたるまで発刊されていない。そのため日文科生の大半が誌要を知らない状態にある。現在何ら実質的活動を行っていない国文学会から、この誌要臨刊号の発刊を委託され、私達は国文学会との積極的關係を保つためにその意を受けた。

しかし、70年以降の総括と今後の活動方針を明確にしないまま、このような形で誌要を刊行することは、犯罪的なことかもしれない。また、国文学会にとっては、ある種の痛みかとも思われる。私達は、国文学会の現状を一構成員として深く憂慮するとともに、誌要22号の後記にあるように、『これは一面の「正常化」です。そしてこの「正常化」も裏の「異常」にある程度蓋をする役割りを果たすことになる。』ことを大変恐れるものである。総括と方針を今後の実質的な活動の中か

ら出して行くというのは、ある意味で方針となり得るかもしれない。しかし、それはあまりに無責任な方針であることに変わりはない。現在、国文学会が置かれている立場は理解できるが、その立場現状を背負い切ったところから今後の活動を展開されんことを望む。同じく誌要22号の後記に『できるならば、この号が旧態の最後、新体の端緒となりますように』とあるように、この号が真に国文学会の再興につながることを、また私達の低迷を続ける学術運動の新体の端緒となることを願うものである。

最後に本構座に講演していただいた講師の方々、相談役として御世話になった小田切秀雄、渡辺広士両先生に深く感謝の意を表したい。
(小林正明)

※『日本文学誌要』臨刊号に関しての意見お問い合わせは、左記に願います。

千代田区富士見町二ノ一七

法政大学学生会館内306号室

日文科学生委員会

一九七四年九月二〇日発行

日本文学誌要 臨刊号

編集 法政大学日本文学科学学生委員会

法政大学学生会館内三〇六号室
電話 〇三(264)九六八一

印刷 東京都中央区銀座東三ノ七

東銀座印刷出版株式会社
電話 〇三(542)三九四一、五

発行 東京都千代田区富士見町二ノ一

七 法政大学大学院内

法政大学国文学會

電話 代表〇三(262)二三五一
振替 東京六九四三